

2023

1.18 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_g\\_lwIRGrTwyWQH5ERGUaw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_g_lwIRGrTwyWQH5ERGUaw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# SDGs で言語教育

## CLIL アプローチの国際共修への有効性

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

CLIL

SDG s

高等教育の国際化

国際共修

言語教育

**田村 美香** 准教授

工学研究院 附属国際教育支援センター

私は 10 年間工学部学士課程国際コースのコーディネーターを務めており、工学研究院附属国際教育支援センターのスタッフでもあります。九州大学・比較社会文化学府で博士号を取得しました。

研究は、高等教育の国際化、異文化コミュニケーション、外国語学習など、幅広い分野を対象にしています。私は現在、初中級から専門レベルまで 3 つのレベルの日本語コースを、学生が主題と第二言語を同時に学ぶ CLIL(コンテンツと言語の統合学習)アプローチを使用して教えています。また、EMI(英語媒体教育)により学部教育も担当しています。

留学生担当教員として、九州大学の英語理工系英語学位プログラムの留学生が、自治体、NGO、国際交流協会の支援を受けながら近隣地域に貢献するサービス・ラーニングやコミュニティ・エンゲージメントを強く推進しています。

本発表では、日本の高等教育を取り巻く国際化の潮流とキーワードを概観し、CLIL(Content and Language Integrated Language Learning : 内容言語統合型学習)と 4 つの C (Content, Communication, Cognition, Culture/Community) を通じた言語学習と国際共修の有効性について皆様と議論ができればと思います。

欧州発のバイリンガル教育の手法 CLIL は、効果の高い英語教育法として全世界に急速に広まっています。本発表では理工系の学部・学府で学ぶ多国籍の留学生と日本人が受講する中～上級日本語クラス「プログレッシブ日本語 I・II」の事例を紹介したいと思います。この授業では、受講者が SDG s の 17 目標を通して、世界と自国の課題を日本語で考え、自分ゴト化し、行動を起こせるようになることを目指しています。